

これまでの検討内容の取りまとめ

人生 100 年時代にあって、地域の絆でコロナ禍を乗り越える
これからの市立公民館の運営について
(骨子案)

令和 3 年 1 月 2 9 日

高岡市教育将来構想検討会議

はじめに

高岡市教育将来構想検討会議（平成 30 年 4 月設置、以下「本検討会議」という。）は、本市における学校教育及び社会教育・生涯学習等の振興に向け、今後 10 年を視野に基本的な方向を定める教育の将来構想を策定することとし、専門的かつ総合的に協議を進めてきた。平成 31 年 2 月には、小中学校の配置の基本的な方向を答申し、小中一貫教育の推進や今後の小中学校の配置の基本方針が定められた。また、二上まなび交流館や青年の家の在り方についても答申を行い、既に施策に反映されている。

今回は、昨年度から進めてきた市立公民館の今後の在り方について、対象の 36 市立公民館で開催した地域懇談会でお聞きした課題や要望を基本に、地域コミュニティの核となる市立公民館の今後の一層の有効活用に向け、本骨子案を取りまとめた。

本市においても、今後一層の少子高齢化が進むなか、市内全域の多くの地区において高齢化率が 40% に近づく現状がある。また、平均寿命は男性 81 歳、女性 87 歳と超長寿社会を迎えているが、健康寿命は男性 72 歳、女性 74 歳と、健康寿命が短く、その改善が望まれる。人々が地域に出て交流し、仲間をつくって会話を楽しみ、心身の健康づくりに取り組むことが一層重要となっている。

加えて、高齢化による地域の担い手不足を懸念する声が多いが、国では法改正を行い、70 歳まで働くことを奨励している。60 歳で退職して地域に貢献するというモデルは、大きく変化してきている。人生 100 年時代は、生涯にわたって心身の健康を保ちながら、年齢に囚われることなく、家庭生活、地域生活、職業生活のそれぞれの場にあって、一人一人が個性や能力を発揮し、人と人との信頼の絆を深め、心豊かな日々を重ねていくことが大切である。

文部科学省では、大きく変化する時代状況にあって、公民館は地域の人々が気軽に「集う」場として、また自身の興味関心や地域課題について「学ぶ」として、さらには様々な地域団体や人々を「結ぶ」場として、積極的な役割を果たし、人づくりや地域づくりに大いに貢献すべきであるとしている。

本市においても、各市立公民館は、様々な経緯を経て現在を迎えており、それぞれに創意工夫を凝らした運営がなされ、社会教育、生涯学習活動から自治会や地域の健康福祉、防犯、防災など幅広い分野の活動が展開されている。地域コミュニティの希薄化が指摘されて久しいが、本市においては、これらの活動を通して長年培われてきた地域自治、住民自治の基盤が維持されている。人と人がつながる文化創造都市高岡の実現に向けて、またコロナ禍という未曾有の社会課題に直面する中において、今こそ、顔と顔が見える地域コミュニティの絆が一層重要となっている。

公民館を地域コミュニティの核として、市民一人一人が地域に愛着と誇りを持ち、主体的に学び、つながり、さらには地域課題の解決に取り組むなど、地域コミュニティの身近な拠点として、より有効に活用されるよう、その基本的な方向を以下に示したところである。

時代が変わろうと、人は互いに思いやりを持って交わることで暮らしを豊かにしていくことができる。その実践の主体は、市民一人一人の意識と行動に負うところであり、皆様の一層のご理解とご協力を心からお願いしたい。

第1章 高岡市の市立公民館の設置及び運営の概況

(1) 設置概況

高岡市では、旧小学校区を基本に市立公民館を整備することとし、平成25年度の西条公民館の新設を以って、36館の市立公民館の設置を終えた。個別の公民館の設置についてはそれぞれに経緯が異なり、運営形態も大きく4つに分けることができる。①地域の社会教育、生涯学習の振興を主たる目的として設置した単独公民館が14館、②過去の市町村合併の経緯により、公民館に行政の窓口業務を引き継いできた地区連絡センターを併設する公民館が13館、③平成17年度に旧高岡市と合併した旧福岡町の運営形態を継承する福岡地区の公民館6館、さらに、過去の市町村合併の経緯により、支所に公民館を設置したものであり、現在はコミュニティセンターと呼称し、指定管理で運営がなされている3館がある。

旧小学校区を基本に設置していることから、地域住民にとって身近で利用しやすい立地となっており、社会教育や生涯学習の講座やサークル活動、自治会や地域の健康福祉、防犯、防災等の活動の拠点施設として地域コミュニティの核となる役割を果たしている。

<設置形態別の一覧>

設置形態	館数	公民館名
単独公民館	14	博労、成美、平米、定塚、下関、横田、西条、川原、木津、二上、古府、北般若、是戸、醍醐
地区連絡センター併設公民館	13	能町、野村、二塚、佐野、守山、福田、国吉、牧野、太田、石堤、東五位、小勢、立野
福岡地区公民館	6	福岡中央、福岡、山王、大滝、西五位、赤丸
支所併設公民館	3	伏木、戸出、中田
計	36	

また、公民館類似施設として設置されている自治会公民館は市内に346館あり、主に単位自治会において管理運営され、集会機能のほか、市立公民館と同様に学級・講座や教室、公民館まつり等、活発に活動を行っている自治会公民館もある。

<地区別自治会公民館数（令和2年4月1日時点）>

単独公民館(14館)														地区連絡センター併設公民館(13館)											福岡地区公民館(6館)						支所併設公民館(3館)				
博 多	成 美	平 塚	定 塚	下 関	横 田	西 条	川 原	木 津	二 上	古 府	北 般若	是 戸	醍 醐	野 村	二 塚	佐 野	守 山	福 田	国 司	牧 野	太 田	石 堤	東 五位	小 勢	立 野	福 岡東 区東 区東	福 岡東 区東 区東	山 田	大 滝	西 五位	赤 丸	伏 木	戸 出	中 田	
15 館	19 館	6 館	14 館	11 館	9 館	14 館	5 館	6 館	8 館	13 館	7 館	7 館	7 館	13 館	19 館	12 館	13 館	10 館	10 館	14 館	12 館	11 館	9 館	15 館	6 館	9 館	5 館	2 館	7 館	6 館	8 館	6 館	18 館	15 館	22 館



(2) 利用状況

市立公民館は年間延べ約 519,000 人（令和元年度）の利用があり、講座・学級等の自主事業、定期的なサークル活動のほか、連合自治会など各種団体における活動拠点として、幅広い層の個人、団体に利用されている。

平成 30 年度の社会教育調査（中間報告）では、国民 1 人当たりの公民館の利用回数は 1.3 回とされているなか、本市においては、1 人当たり 3.0 回の利用がある。

また、全体の 9 割以上の公民館の利用回数が全国平均を上回っている。

<市立公民館の年間利用者数の推移>



（３）主な社会教育、生涯学習の活動

ア 各公民館での自主事業やサークル活動

各公民館では、社会教育や生涯学習の振興に向け、公民館が主体となって運営する自主事業と、市民が主体的に運営するサークル活動がある。また地区内の自治公民館と連携しての公民館まつりや美化活動、研修会等を行っている。

＜各公民館の自主事業＞



スマホ教室（川原公民館）



いきいき学習活動（二上公民館）



健康づくり教室（横田公民館）



家庭教育学級（平米公民館）



公民館まつりステージ発表（西条公民館）



親子三世代活動しめ縄づくり（成美公民館）

＜サークル活動＞

市立公民館では、94 種類、587 サークル（令和 2 年 4 月 1 日時点）が活動している。詩吟や民謡、体操、書道等、高齢者中心のサークルが多く見られるほか、近年では、若い女性に人気があるヨガや料理、子ども向けの空手やダンス等のサークルも増えている。

主なサークルの種類	数
詩吟	50
民謡・民踊・民舞	39
体操	39
書道・ペン字・ペン習字	39
3 B 体操	25
大正琴	23
コーラス	20
茶道	19
パソコン	15
オカリナ	15
手芸	15
詩舞・剣詩舞・剣部	14
華道	12
ヨガ	12
舞踊・新舞踊・日本舞踊	11



書道教室（赤丸公民館）



シャイニングキッズダンス（是戸公民館）



パステル画教室（太田公民館）

イ 高岡市公民館連絡協議会の活動

市内公民館相互の連携を密にし、公民館活動の健全なる発展を期することを目的に積極的な活動を展開している。

(役割)

- ・ 公民館相互の連絡調整
- ・ 公民館運営に関する協議会・研究会の開催
- ・ 公民館活動の普及を図るための調査・研究及び各種講習会・座談会の開催
- ・ 公民館職員の資質向上を図るための研修会等の開催
- ・ その他目的達成上必要な事項

公民館フェスタの開催

(内容)

- ・ 公民館研究大会
- ・ ホール発表
- ・ 作品展示
- ・ お茶席・体験教室 等



(4) 自治振興会など地域の幅広い活動

地域の各種団体の活動拠点として、団体の事務局が設置されているところもあり、会議や総会、事業の実施等、多くの団体に幅広く活用されている。

<まちづくり活動>

- ・自治振興会・町内会
- ・花とみどりの銀行 等

<健康・福祉活動>

- ・地区社会福祉協議会
- ・老人クラブ
- ・体育振興会、スポーツ推進員
- ・健康づくり推進懇話会
- ・赤十字奉仕団
- ・民生委員児童委員協議会
- ・食生活改善推進協議会
- ・環境保健衛生協会
- ・ボランティアグループ
- ・母子保健推進員 等

<安全・防災>

- ・交通安全協会
- ・防犯組合
- ・安全なまちづくり推進センター
- ・自主防災連絡協議会
- ・除雪推進協議会
- ・消防団 等



特殊詐欺被害ゼロ地区運動（守山公民館）



校区防災自主訓練（川原公民館）



子育て情報交換会（4市立公民館）

(5) 子育て支援活動

ア 子育て情報交換会（家庭教育支援）

市が委嘱する家庭教育推進サポーターが中心となり、子育て中の保護者に向けた親学び支援を市立公民館4館（成美・木津・古府・牧野）で月1回実施。

イ 放課後子ども教室・土曜学習（地域学校協働活動推進事業）

学校や公民館を拠点とした子ども達の豊かな心を育む体験・交流活動を実施している。放課後子ども教室は22校区で実施、うち市立公民館は4館で実施。土曜学習は16校区で実施、うち市立公民館は6館で実施。（平成31年4月時点）

第2章 市立公民館のより有効な活用に向けて

1 市立公民館の運営上の諸課題の把握と整理

これからの人生100年時代における市立公民館のより有効な活用方策を検討するため、利用者や運営者の皆さんの声を直接聞くこととし、市立公民館の運営に従事する館長、公民館主事等へのヒアリングや連合自治会や諸団体、サークル活動主催者など利用者と対象とした懇談会を開催した。

(1) 市立公民館ヒアリング（令和元年10月～11月実施）から

市立公民館36館を訪問してのヒアリング結果では、主な課題として、①利用者の高齢化・固定化、②施設の老朽化、③住民ニーズに応じた多様な役割・機能への対応の3点があげられた。

ア 利用者の高齢化・固定化

本市においても利用者の高齢化・固定化は各公民館の課題となっている。講座や教室の講師など、運営側の高齢化も進んでおり、各公民館では、若年層の利用促進につなげる事業の実施や地域での指導者の育成、掘り起こしを進めている。

イ 施設の老朽化

市立公民館の多くは昭和50年代前半から60年代前半にかけて整備されたものであり、設置から30年以上経過している公民館は全体の半数以上となっている。高岡市公共施設白書では、多くの公民館は耐用年数が50年（鉄筋コンクリート造）とされているものの、一部の公民館は、耐用年数が38年（鉄骨造）とされていることから、令和元年から耐用年数を迎える施設も存在するが、持続可能な施設確保の観点からは、既存施設の有効活用に努めることが必要である。

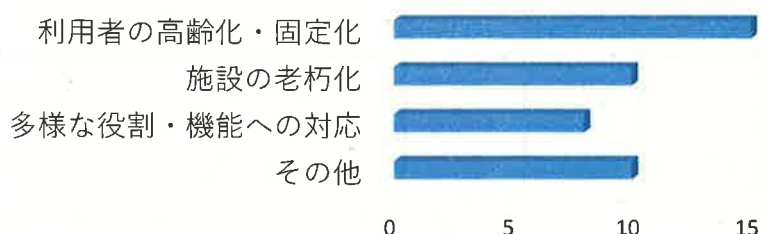
ウ 地域ニーズに応じた多様な役割・機能への対応

公民館利用については、従来の社会教育、生涯学習機能にとどまらず、弾力的に活用して、地域ニーズに応じた様々な活動に利用できるよう、施設運用の弾力化を図ることが期待されている。

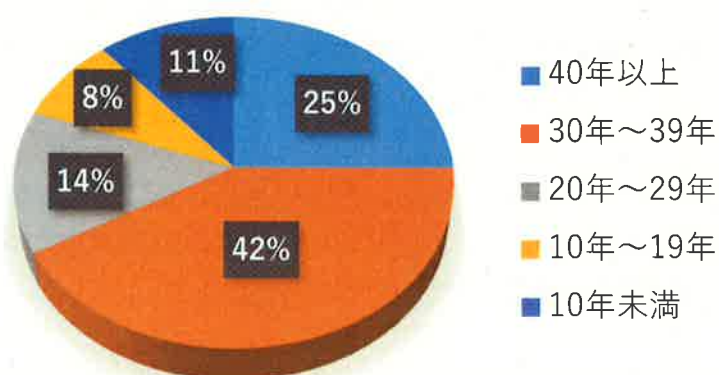
公民館は既に、自治会活動をはじめ、地域の福祉や安全、防災など、コミュニティの拠点としての役割を果たしている。今後もより幅広い分野の役割や機能を担うことができるよう、柔軟な対応が求められている。

- ・ 地区によっては、公民館のより自主的な運営を進め、地域ニーズに応じた、より弾力的な活用を図りたいとする意向がある。
- ・ 学校再編により地域の拠点施設が公民館のみとなる地域においては、活動の維持、存続のためにも、地域コミュニティの核として、より主体的な運営に努めたいとの声がある。
- ・ 地区連絡センター併設公民館においては、地域支援事務の在り方について別途検討が行われている。

公民館の課題



市立公民館 経過年数



(2) 36市立公民館での地域懇談会（令和2年7月～11月開催）から

公民館は地域自治の核となる施設であり、設置の経緯により運営形態も大きく異なる実態がある。地域の実情を直接聞き取る機会を設け、地域事情に応じた配慮を加えるなど、市民の声をより反映した検討となるよう努めることが大切であるとの考えから、市内36市立公民館において地域懇談会を開催し、延べ514名の方からご意見をいただいた。より具体的にご意見をいただけるよう、次の3つのテーマを基本としてご自由にご意見をいただいた。

<意見交換のテーマ>

ア より幅広い層の利活用の推進

- 本市の市立公民館は、先人の努力により、旧小学校区に整備され、現在も多く市民に活用いただき、全国的に見ても活発な活動が展開されている。しかし、利用者や運営に携わる方々の高齢化や固定化が懸念されることから、より幅広い層の利用や運営参加が進むよう具体的な検討をさらに加えることが望まれる。

（考えられる取組の具体例等）

- ・若い層の利用促進に向けた取組の検討（SNSの活用等）
- ・地域における指導者の育成、掘り起こし（人づくり）

イ 弾力的な運営や機能の多様化等による利便性の向上

- 地域コミュニティの形成の観点からも、公民館の果たすべき役割はさらに高まると考えられる。また、より柔軟で弾力的な運営方法や機能の多様化等を求める声も聞いており、市民の利便性を高める方向で、さらに検討を重ねる必要がある。

(考えられる取組の具体例等)

- ・意欲ある地域をモデルケースに、地域コミュニティ活動の拠点として、地域住民や市民が公民館をより弾力的に運営することを検討

ウ 地域の実情に応じた既存施設の有効活用や持続可能な運営

- 公民館施設については一部に老朽化に対する懸念があるが、公共施設の適正配置の観点からも新規の建設等は難しいと考えられる。持続可能な運営の観点から既存施設の有効活用や機能の集約など、具体的な方向性についてさらに検討が必要である。

- 本市の市立公民館では、それぞれの形態に応じた運営や職員配置等を行っている。今後は、市全体の公民館の持続可能な運営の観点から、さらに課題等を精査していくことが望まれる。

2 地区懇談会の意見を踏まえた改善の方向

(1) より幅広い層の利活用の推進

ア 公民館における活動等の幅広い年齢層への周知

ホームページや SNS を活用し、幅広い年齢層へ活動を周知する。また、コミュニティペーパーなどの新たな紙媒体の活用やケーブルテレビでの活動紹介など、実効性のある取り組みを進めたい。

イ 子どもたちや子育て世代が気軽に足を運べる場の設定

- ・子どもたちが公民館に集まって宿題を一緒にしたり、遊んだりする子どもの居場所や、子育て世代やシニア世代の皆さんが気軽に足を運べる場づくりを進める。
- ・親子活動や親子三代による活動など、子どもの思い出づくりの機会を設け、子どもたちから公民館の活動に親しむようにする。
- ・市の子育て支援施策との連携を深め、公民館での子育て支援に係る活動の拡充を図り、子育て世代を公民館の活動に取り込む。

ウ 社会のデジタル化に対応した環境の整備とデジタルリテラシーの向上支援

- ・オンラインでの講座や会議の開催等、在宅でも公民館の活動に参加しやすい環境を整え、多様な運用を図る。

- ・高齢者対象のスマホ活用教室の開催など、デジタルディバイド解消のための体験講座等を継続的に開催する。

エ 時代の急速な変化に対応したリカレント機能を果たす講座の開催

大学や専門機関等と連携し、社会人の学び直しを支援する講座を開催する。

オ 地域の歴史を語り継ぐかたりべの会の開催

市立公民館を設置する各地区には、それぞれ独自の歴史や伝承があり、次世代へ語り継ぎ、共有することで地域への愛着や誇りを醸成する。

カ 健康・福祉・ボランティア活動の円滑な実施

人生100年時代において、健康寿命の延伸は大きな課題であり、それぞれの年齢層において健康づくりの取り組みが広く普及するよう、健康・福祉・ボランティア等の活動を、学校とも連携を図りながら具体的に進めることが望まれる。

(2) 弾力的な運営や機能の多様化等による利便性の向上

ア より自主的な運営について意欲のある地区での、実証事業の実施

複数の地域から、公民館のより弾力的な運営について検討したいとの意向を聴いており、モデルケースとして検討に入ることが望まれる。

イ 施策実施における教育委員会と各部局との円滑な連携促進

市立公民館においては、既に社会教育、生涯学習の機能のみならず、自治会や各種団体の活動の場として重要な役割を果たしてきている。今後も、住民自治の拠点としても円滑な活動が進められるよう、教育委員会と市長部局の担当部署との連携を密にし、施策がより円滑に実施されるよう努めることが必要である。

ウ 公民館主事等の専門性の向上と運営従事者間の連携促進

公民館において、今後より多様な機能が求められる中、その運営の中心となる公民館主事等においては、様々な状況に対応し、連絡調整や企画運営ができるよう、資質や専門性の向上を図ることが望まれる。また各公民館や関係機関との円滑な連携により、多様な課題に対応できるようネットワークの構築に努めることが望まれる。

エ 公民館職員への幅広い観点からの適切な人材の確保

公民館の運営に携わる公民館主事等の職員については、日ごろの活動等を通して、地域との信頼関係を築き、多様な地域ニーズにも応じる柔軟性や熱意が求められる。その職員の登用については、地域おこしや、地域プロデュースにも関心や経験のあるU I Jターンなどの移住者なども含め、適切な人材を確保することが望まれる。

オ 学校との連携による活動の促進

将来の地域の担い手は子どもたちである。地域を、子どもたちの学びのフィールドに広げることで、子どもたちを地域の人々や公民館の活動へとつなげていくことができ、地域への愛着や誇りを育てることにつながる。学校と公民館との具体的な連携を進めていくことが望まれる。

また、児童生徒の安心安全を支える見守り隊の活動や放課後児童クラブの運営等、地域の子どもの地域で育てる活動も、子どもたちが地域の人々に感謝し、豊かな心を培う有効な機会となっている。

カ 地域の安全安心を確保する身近な拠点としての生活福祉や防災機能の拡充

新型コロナウイルス感染症の拡大により、感染に対する正確な理解がないなか、不安が高まりネットによる個人攻撃や風評被害が発生した。また、近年の気候変動による全国での集中豪雨の発生や、冬の記録的な大雪など自然災害への日ごろからの備えに対する意識や必要性が高まっている。地域コミュニティの身近な拠点として、地域の安全安心を高める機能の拡充は必須である。

(3) 地域の実情に応じた既存施設の有効活用や持続可能な運営

ア 既存施設を活用した施設の有効活用の促進

- ・公共施設の適正配置の観点からも新規の建設等は難しいと考えられる。持続可能な施設運営の観点から、既存施設への機能移転による施設の有効活用や施設統合による機能の集約などを図りながら、必要な施設等の維持、確保に努めることが望まれる。
- ・学校再編が先行している石堤地区では、市街化調整区域など特殊な背景もあり、現石堤公民館を廃止し、旧石堤小学校へ移転することとしており、学童保育や体育施設の活用も含め、持続可能な運営方法を取り入れる。

イ 全員が地域の担い手として共に地域を豊かにする実践の普及拡大

- ・市立公民館においては、これまでも施設整備等の際には、地元負担についてもご理解をいただき、事業を推進してきた。今後も、自らの地域を互いの信頼と協力によってより良くしていくという自助、共助の意識を持って取組を進めていただくよう、市民各位の一層のご理解をお願いしたい。
- ・また、市の行政を担う市の職員においても地域へ戻れば地域コミュニティの一員であり、地域の課題の解決に、コミュニティの中でより積極的な役割を果たしていただきたい。

おわりに

昨年7月から11月にかけて、36の市立公民館を訪問し、公民館をご活用いただいている連合自治会や多様な地域団体の皆様、さらにはサークル活動やPTA活動等でご活用いただいている皆様から率直なご意見をいただいた。

共通して感じたことは、参加いただいた皆様の、それぞれの地域への愛着と活動をより活発にして、地域を盛り上げていこうという熱意である。

西五位公民館では、小学生のお子さんをもつお母さんから、「公民館へ来たことがなかったが、児童クラブの役員になり、夏休みにグラスづくりの活動を子どもたちと一緒にいった。子どもが大変喜んでくれて、暑い夏、毎日、つくったコップで冷たい麦茶と一緒に飲んで、たくさんのお話をしてくれた。こんなに喜んでくれるなら、もっと早くから活動に参加していればよかった」との発言をいただいた。

福田公民館では、放課後児童クラブを運営する自治会長さんから、「子どもたちの世話をしなければと思い、預かりを始めたが、何年も経った今は、そこで育った子どもたちが、地元の祭礼の獅子舞に自ら申し出て加わってくれ、伝統を引き継いでくれている。今、自分たちが、子どもたちに支えられていることに気づき、将来に希望を持つことができた」と、大変感慨深く語られた。

また、多くの公民館で、コロナ禍で年配の方が、外出される機会が減り、足腰が弱ることを大変心配されていた。コロナ禍による人々の孤立は、心身の疲弊を招き、その後の健康に大きく影響する。食生活改善推進協議会の皆さんは、一人暮らしの老人宅に弁当を配付されているが、皆さんの寂しさを強く受け止められている。

本市の市立公民館は、明治以降の市町村制の発足とその後の市町村合併により、多くの経緯を経て現在に至っている。地域地域の事情があり、工夫がなされている。コロナ禍にあって、また時代が目まぐるしく変化する今、地域コミュニティの果たす役割は、極めて重要になっている。東京一極集中が見直されるなか、真の高岡の豊かさに目を向け、36の市立公民館を身近な拠点として、都会にはない懐の深い、コミュニティづくり、地域づくりを進めることが大変重要である。

本提言が、その一助となることを願っている。